

アジアと共に成長する



経団連日本ミャンマー経済委員長
NTT データグループ相談役

ほんま よう
本間 洋

2023年から日本ミャンマー経済委員長を務めている。残念ながらウイズコロナや政情等により、しばらく現地訪問がかなわなかったが、ようやく2025年11月下旬に訪問することができた。

当社は2012年にミャンマーに現地法人を設立し、金融や貿易関連のインフラシステムなどを構築してきた。初期のシステムは日本人メンバーを中心に現地社員の育成も兼ねて一緒に構築したが、ウイズコロナや政情により現在は現地メンバーを中心に開発・維持・保守作業をしてきている。「災い転じて福となす」ではないが、この状況で、現地メンバーの「自分たちがやらなくては」という当事者意識が高まったこともあり、技術的にもプロジェクトマネジメント力も大きく成長している。

今回、現地の皆さんと話をする中で、経済情勢等が厳しい状況にありながらも、家族・仲間・地域社会などを大切にしながら心豊かに暮らしており、本当にたくましいと感じた。仲間同士で話している時の笑顔もとても素敵だった。民族衣装で踊りを披露してくれた際の、若い社員の瞳の輝きも印象に残った。吉武将吾 臨時代理大使との意見交換では「ミャンマーの安定化と持続的成長に向け、官民で力を合わせて協力したい」という強い思いに共感をした。ヤンゴンにはヤンゴン大学という優秀な大学もあるので、こうした機関とも連携しながら、ミャンマーらしい経済的な強みをしっかりと作って成長してい

ければと思う。

私は2010年からアジアビジネスに携わっているが、何とか日本とアジアが共に成長していけるパートナーになればいいとずっと思っている。日本は少子高齢化などが進む社会課題先進国だが、アジアも防災、医療、環境対応、物流などの多くの社会課題を抱えている。日本発で世界がうらやむような課題解決の仕組みをいち早く作り、アジアへ展開して共に成長していくことが重要であり、日本の成長シナリオの一つだと思う。企業と社会がつながり、社会課題を解決するエコシステム等は、日本の「すり合わせ力」などの強みを活かしたダントツの領域にできる。また、逆にアジア側でも、新興国が故に飛び級並みのイノベーションを起こすことも可能である。

社会課題の解決には、私どもの業界のIT・デジタル・AIなどの活用技術が大きく貢献できる。これからもより一層力を注いでいきたい。

